

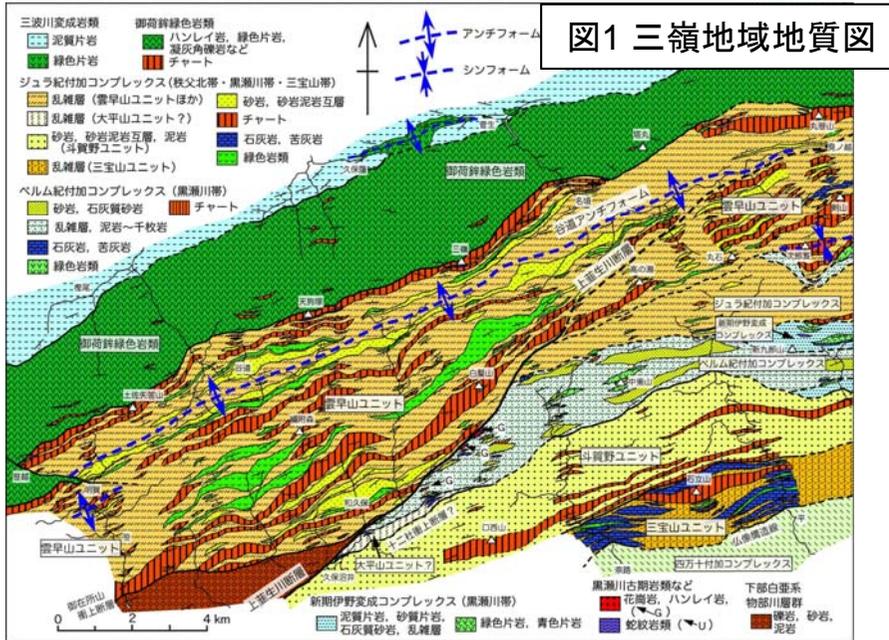


Faculty of
Science and
Technology
Tokushima University

四国の秩父帯の地質構造

[キーワード: 四国, 秩父帯, 衝上断層, 横ずれ断層, 褶曲]

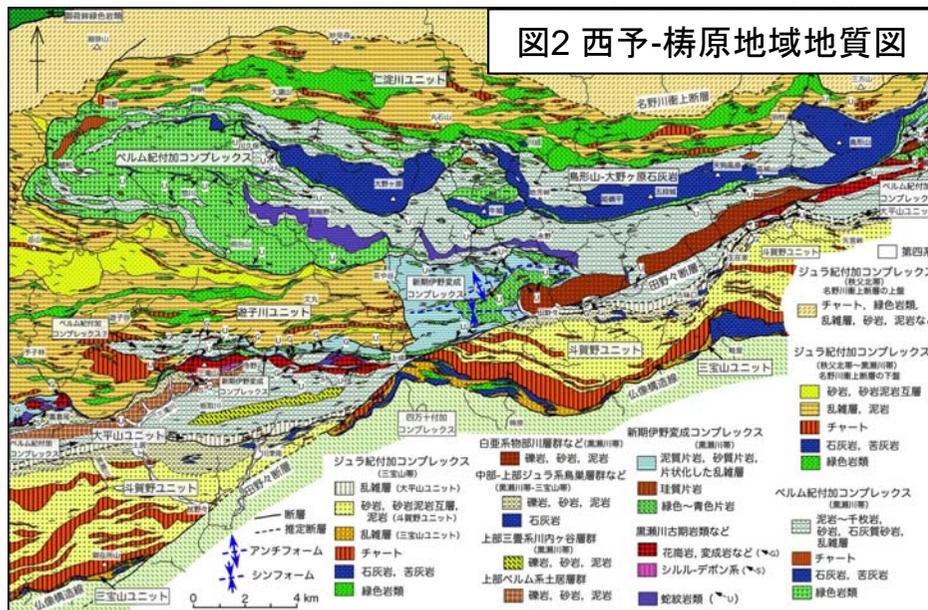
教授 村田明広



四国の秩父帯で、地質図スケール (mappable scale) の地質構造の研究をしています。ここでは、高知県から徳島県にかけての三嶺 (みうね) 地域と、愛媛県から高知県にかけての西予-梶原地域の地質構造を紹介します。

三嶺地域の秩父帯では、北縁部にアンチフォームが存在し、その北翼に御荷鉾緑色岩類が分布しています (図1)。南翼に分布する玄武岩質火山岩類は、御荷鉾緑色岩類に相当する構造水準にあると考えています。また、この地域では、北東-南西性の左横ずれ上韮生川 (かみにろうがわ) 断層が秩父帯を約 12 km 変位させています。

西予-梶原地域の秩父帯では、石炭紀-ペルム紀の大野ヶ原-鳥形山石灰岩体が5つのナップ (衝上地塊) に分離していることが分かりました (図2)。この地域は、黒瀬川構造帯の模式地を含んでいます。シルル-デボン系堆積岩や三滝火成岩類・寺野変成岩類などの黒瀬川古期岩類がレンズ状岩体として分布しています。また、新期伊野変成コンプレックスという変成岩類が分布しており、変成鉱物としてアルカリ角閃石を含みます。ここでも三嶺地域と同様に、北東-南西性の左横ずれ田野々断層が秩父帯を斜断しており、衝上断層としての仏像構造線を約 8 km 変位させています。



分野: 地球惑星科学

専門: 構造地質学

E-mail: murata@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7242

